

会 議 録

会議の名称	平成28年度第1回 病院運営審議会		
開催日時	平成28年(2016年) 7月21日(木) 13時30分 ~ 15時30分		
開催場所	市立豊中病院 講堂 (管理棟5階)	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 総務企画課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	天野陽子、上西晟子、角本典子、澤村昭彦、高鳥毛敏雄、多田耕三、津金新、浜田恭介、深谷和代、渡邊太郎	
	事務局	病院事業管理者 小林栄、総長 眞下節、病院長 堂野恵三、副院長 東孝次、副院長 嶺尾郁夫、副院長兼看護部長 藤田幸恵、医務局長 巽千賀夫、薬剤部長 栗谷良孝、事務局長 小杉洋樹、看護部次長 木本正美、総務企画課長 大東幹彦、医療安全管理室長 中上紀子、がん相談支援センター長 坂萩誠二、医事課長 朝倉敏和、施設用度課長 津川昌夫、栄養管理部長 中井智明、地域医療室長 甲斐智典、地域医療室主幹 下雅意陽子、医療情報室長補佐 櫻田靖之、医療安全管理室主幹 大塚靖男、総務企画課主幹 鷺見一馬、総務企画課主幹 中村卓	
	その他		
議題	(1) 委員長の互選について (2) 委員長職務代理者の指名について (3) 平成27年度病院業務状況の報告について (4) 平成27年度市立豊中病院運営計画「実施計画」について (5) オープンホスピタルについて (6) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

病院運営審議会（審議等の概要）

●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中10人出席、本審議会成立を報告

●傍聴希望申込みの許可

傍聴希望者なし

●議案審議

- 1 委員長の互選について
- 2 委員長職務代理者の指名について
- 3 平成27年度病院業務状況の報告について
- 4 平成27年度市立豊中病院運営計画「実施計画」について
- 5 オープンホスピタルについて
- 6 その他

《審議結果》

1 高鳥毛敏雄委員を委員の互選により委員長に選出

2 高鳥毛委員長からの指名により、多田耕三委員を職務代理者に選出

3 平成27年度病院業務状況の報告について事務局より資料に基づき報告

《質疑応答》

1. 病床利用率が下がった原因はなにか。今回の診療報酬の改定が原因か、それとも、方向転換や新たな取組みによるものか。

昨年度、在院日数の短縮に取り組み平均在院日数が12.5日から11.8日に短縮したが、新規入院患者数が昨年度とほとんど変わらなかったため病床利用率が下がった。今後は、新規患者を確保していくため、①地域からの紹介患者を増やす、②救急の受入を増やす、③広報等によるPRを充実させる、などの取組みを行っていく。

2. P11の「年度別入院患者数と診療単価」を見ると、入院患者数が過去10年で最低となっているが、その要因はなにか。

入院患者数は延べ入院患者数のことで、平均在院日数が短くなると、それだけ延べ入院患者数は減少する。平均在院日数が短くなると、診療単価は上がるが、結果的に診療単価が上がった効果よりも、延べ入院患者数が減少した影響が大きく、入院収益はマイナスとなった。

3. 外来収益が増加した要因としては、C型肝炎の高額な材料費によって増加したと説明があったが、材料費を削減するための取組みは行っているか。また、C型肝炎以外で材料費が増加する要因があったか。

診療材料の価格については、基準価格（ベンチマーク）に対して、若干でも下がるよう価格交渉をしている。

C型肝炎の材料費以外で材料費が増加した要因としては、リユーズブルや、感染対策・安全対策の一環で価格の高いディスポーザブル製品（使い捨て医療器具）を採用しているため。

4. C型肝炎の薬に関しては、院内処方が主か、それとも院外処方も加わっているのか。もし、院内処方が主であれば、4億2千万かかっても4億4千万の増収となり病院としては経営的にもプラスになると思うが。

通常外来患者さんには院外処方で提供しているが、C型肝炎の薬剤につきましては、非常に高価であり、院外での在庫のことや、服用の仕方など注意が必要なこともあり、現在は院内処方で調剤している。

5. 「5. 地域医療室業務状況」について、訪問看護患者数が減少している。この先病院として在宅医療をめざして動くと思うが、減少している原因はどこにあるのか。

当院は、訪問看護の対象者を原則、末期のターミナル患者とし、退院支援の一貫と考えている。しかし、患者さんによっては、地域の新しい訪問看護ステーションや診療所と合わなかったり、不安がある方などもおられるため、その様な問題を解消する必要がある方などに対しては、当院から訪問看護を実施している。

数が減少しているのは、地域に訪問看護ステーションや診療所が数多くあるという環境の要因と、地域との連携ができてきていることが考えられる。

6. がんの相談件数が大幅に増加している要因は何か。

がんの相談を受けるMSWが平成26年度は常勤換算で1.8人であったが、平成27年度は常勤換算で3.8人に増加し、より多くの相談に対応できるようになったため。

7. 新規の外来患者のうち、紹介患者の割合は増えているのか。

紹介率は毎月統計を出している。平成26年度は72.1%、平成27年度は75.5%で増加している。平成28年度の見込みも若干増加しているところである。

8. 紹介患者割合の目標設定をしているのか。

診療報酬改定による初診患者の動向や地域の病院の移転などにより、患者さんの動きの予測がつきにくい状況があったが、6月までの状況をみると、紹介状を持たない初診患者が大幅に減ってきており、紹介率は今後増加していくと思われる。

目標設定は、予測しにくいですが、平成28年度は76%程度を予測しており、それ以上に増加する可能性もある。

急性期病院として、地域の病院から紹介のあった患者さんに対して急性期医療をしていく使命があり、その方向性で進むのが正しいのではないかと考えている。

9. インシデントは不具合やなんらかの事故ととらえてよろしいか。それが年間2, 200件あり、一日7~8件発生しているというのは、どのように評価されているのか。また、2, 200件のうち9割を看護部が占めているが、何か要因があるのか。

インシデントの中にもいろいろなレベルがあり、患者さんに大きな影響を与えたものから、全く影響を与えなかったけれども実際起こってしまったら影響を与えていたかもしれないものまですべて含んでいる。

看護師は24時間、患者さんのベッドサイドでケアをしていることと、患者さん自身で転倒した場合なども看護部から報告してもらうため、件数も多くなっている。

報告件数が多いほど、常に報告内容を検証し予防策を講じることができるため、事故防止につながっている。

10. レベル0・1・2が改善事項ととらえてよろしいか。

レベルは患者さんに与える影響度で分け、「その他」は、システムのことや設備的なところに関しての報告である。気づいたことはすべて報告してもらっており、当院では、報告内容を検証して改善に努めている。

4 平成27年度市立豊中病院運営計画「実施計画」について事務局より資料に基づき報告

〈質疑応答〉

11. 現在、どの地域に大災害が起きるかわからない状況であり、地域では災害が起きたときに避難誘導までするように言われているが、入院患者さんに対してはどのように対応するか。

大規模災害における初期動作は非常に重要であり、毎年大規模災害訓練を行って

る。大規模災害が発生した場合、まず本部を立ち上げ、入院患者さん避難誘導を行う。その際、各部局で連絡調整を行い、院内もしくは院外の安全な場所に避難誘導させていただく。また、地域で被災された方を受け入れる機能も必要であり、来院した患者さんに対する誘導やトリアージによる振り分けなどの訓練をしている。

1 2. 病床利用率がこの先読めないとの説明がありましたが、私が以前いた職場では、事業を展開し新しいお客さん獲得のため、地域の方に事業を知ってもらう営業活動を行っていた。病院においても患者さんを獲得して収益をあげていかなければならないと思うが、新規患者を獲得する対策はあるのか。

フェイストゥフェイスの関係が重要であり、地域の事業所に対して豊中病院のPRをしながら連携していくことが大切だと思う。

今年度、新規患者確保にあたりプロジェクトを立ち上げた。当院の魅力をアピールする方法や地域や他の医療機関との連携強化の方法について、職員から自由な発想でいろいろな意見を出し合い、新規患者確保について検討していく。

当院は、高度医療を行うため、1年間、在院日数の短縮に向けて取り組んできたが、新規患者の確保ができなかった。新規患者を確保する対策として、特に救急患者の積極的な受け入れや地域医療機関との積極的な連携を図り、断らない医療をすることが重要である。当院としては、断らない医療のためにどのように体制整備をしていくのか、どのように地域の医療機関との信頼関係を築いていくのか、というのが課題だと考えている。

1 3. 分娩件数について以前分析すると伺ったが、何か進展はあったか。また、ハイリスク分娩が、数年前と比べてかなり減ってきているが、その要因は何か。周産期センターとして、ハイリスク分娩を積極的に受け入れていかなければならないと思うが、今後、このような現状に対して、どのように対応していくのか。

今年1月にワーキンググループを立ち上げた。病院だよりで産婦人科を取り上げたり、ホームページの産婦人科のページをリニューアルするなどのアピールを行った。また、6月に産科の医師と地域医療室職員が、近隣の産科約20件訪問し、地域との連携強化に努めた。

1 4. 医療人は患者さんの利益を最優先に考えなければならない。医療の需要の変化を予想するのは大変難しく、地域との連携が大切になると思う。入院、外来の強化も必要であるが、退院後をどのようにするか、在宅をどのようにするかなど、患者さんの生活を見据えた考えが大きく変わってくると考えている。

質の高い医療を患者さんに提供するために、豊中病院がしっかりと位置づけと使命感を持って医療を提供していけば、市民や地域の医療機関と一緒に活動する場が広がり、市立豊中病院としての持ち味が出てくるのではないかと考えている。

当院は、急性期中核病院として地域医療構想のなかで急性期病院として位置づけられ、高度で質の高い医療を提供することに邁進していく。そのなかで、急性期医療が終了した患者さんについては、回復期病院、慢性期病院あるいは在宅に移っていただくことの理解が必要になってくる。当院としては一層の啓発を行っていかなければならないと考えている。

急性期医療を終了した際の回復期病院等への紹介については、「あんしんルート」をさらに拡大していくなどの努力をしていく。また、豊中市病院連絡協議会を通して病病連携を緊密化して患者さんの病状に応じた移動をスムーズにできるよう努力していく。

5 オープンホスピタルについて事務局より資料に基づき報告

6 その他

次回運営審議会の開催は平成29年2月を予定。

<以上、終了>